地　理　総　合

（解答番号 101 ～ 116 ）

第１問　穀物の生産や消費は，自然環境や生活文化にかかわり，地球的課題にも結びついている。これに関する次の問い（**問１** ～ **４**）に答えよ。（配点　13）

問 1　次の表１は，三大穀物の輸出状況について示したものであり，**ア**～**ウ**は，小麦，米，トウモロコシのいずれかである。作物名と**ア**～**ウ**との正しい組合せを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 101

表１

（単位：％）

	世界の生産量に対する輸出量の比率	主な輸出元地域とその地域が世界全体の輸出量に占める割合	
ア	24.4	ヨーロッパ	57.9
イ	16.8	中央・南アメリカ	43.1
ウ	5.7	アジア	78.2

輸出量には同一地域内の国・地域への輸出量を含み，ヨーロッパの数値にはロシアを含む。
統計年次は 2019 年。FAOSTAT により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
小麦	**ア**	**ア**	**イ**	**イ**	**ウ**	**ウ**
米	**イ**	**ウ**	**ア**	**ウ**	**ア**	**イ**
トウモロコシ	**ウ**	**イ**	**ウ**	**ア**	**イ**	**ア**

問 2　次の写真１は，後の図１中の地点Ａ～Ｄの周辺のいずれかでみられる，米を使った特徴的な料理を撮影したものである。地点Ｃの周辺でみられる料理として最も適当なものを，写真１中の①～④のうちから一つ選べ。 102



米を魚介類やトマトと一緒にオリーブオイルで炒めて炊いている。

①



米をココナッツミルクで炊き，ゆで卵や野菜とともに盛り付けている。

②



醤油（しょうゆ）で味付けしたモチ米や豚肉を，笹の葉にくるんで蒸している。

③



ゆでたジャガイモと米に，鶏肉とトウガラシの入ったソースをかけている。

④

写真１

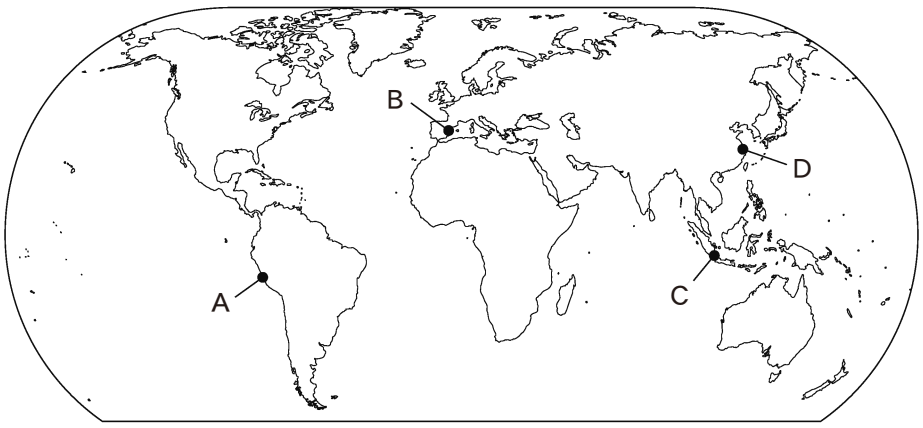
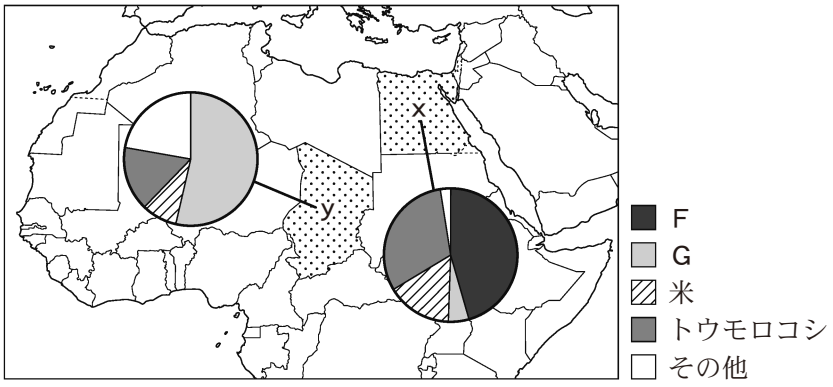


図１

問 3 自然環境に応じて，栽培される作物や栽培方法には特徴がみられる。次の図2は，アフリカのx国とy国における主な穀物の収穫面積の割合を示したものであり，凡例FとGは，小麦とモロコシ(ソルガム)のいずれかである。また，両国の穀物栽培について述べた文章中の空欄**カ**には，灌漑(かんがい)施設と天水田*のいずれかが当てはまる。小麦に該当する凡例と空欄**カ**に当てはまる語句との組合せとして最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 103

*灌漑施設を用いず，雨水のみに依存する水田。



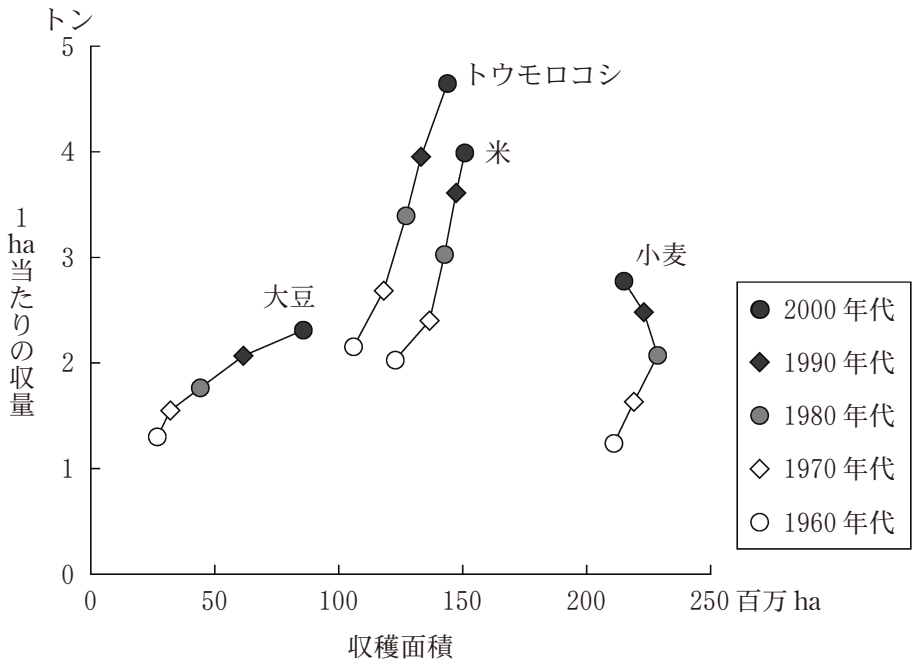
統計年次は2020年。FAOSTATにより作成。

図2

両国では栽培される穀物とともに，水環境などを背景に栽培方法にも特徴がみられる。例えば，x国における稲作では，主に(　**カ**　)が利用されている。

	①	②	③	④
小麦	F	F	G	G
カ	灌漑施設	天水田	灌漑施設	天水田

問 4 作物の栽培は，様々な地球的課題と結びつきながら変化してきた。次の図3は，世界における三大穀物と大豆について，収穫面積と1 ha当たりの収量の変化を示したものである。図3に関することがらについて述べた文章として下線部が最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 104



収穫面積と 1 ha 当たりの収量はそれぞれの年代の平均値を示している。
『アジア経済研究所調査研究報告書 2010』により作成。

図 3

① 大豆は，三大穀物と比べて，1960 年代から 2000 年代にかけて最も収穫面積が拡大した。これは，気候変動によって栽培適地が拡大したことが主な要因と考えられる。

② トウモロコシは，他の作物と比べて，1960 年代から 2000 年代にかけて 1 ha 当たりの収量が最も増えた。近年の増収は，遺伝子組み換え技術の導入などが要因と考えられる。

③ 米は，1960 年代から 2000 年代にかけて 1 ha 当たりの収量が 3 倍以上となった。この間の増収は，「緑の革命」をはじめとする技術革新などが要因と考えられる。

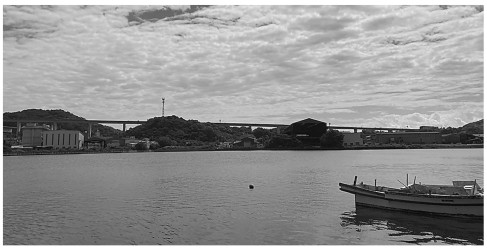
④ 小麦は，1980 年代から 2000 年代にかけて他の作物への転換などによって収穫面積が減少した。これは，世界の食料需要に対して十分な小麦の供給が行われたことが主な要因と考えられる。

第 2 問　広島県の高校に通うセイヤさんたちは，愛媛県今治(いまばり)市の地域調査を行った。この地域調査に関する次の問い(**問 1** ～ **4**)に答えよ。(配点　12)

問 1　西瀬戸自動車道(しまなみ海道)を通って今治市にやってきたセイヤさんたちは，造船所が立地する波止浜(はしはま)湾周辺を観察した。次の写真 1 は，後の図 1 中の地点 A ～ D のいずれかから矢印の方向を撮影したものである。地点 A に該当するものを，写真 1 中の①～④のうちから一つ選べ。 105



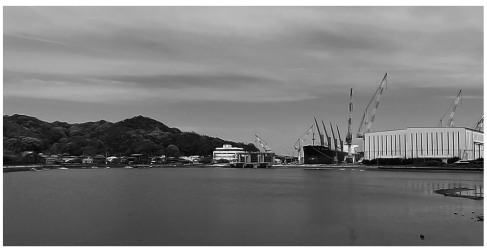
①



②



③



④

写真 1



地理院地図により作成。

図1

問 2 セイヤさんたちは，しまなみ海道のような交通インフラの整備が及ぼす影響を考えた。1988 年に岡山・香川県間，1998 年に兵庫・徳島県間，1999 年に広島・愛媛県間が，陸路ですべて結ばれた。次の表 1 は，四国外から四国への訪問者数のうち，幹線バスと幹線旅客船の利用状況*をまとめたものであり，F ～ H は，徳島県，愛媛県，高知県のいずれかである。県名と F ～ H との正しい組合せを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 106

*通勤・通学目的を除く。

表 1

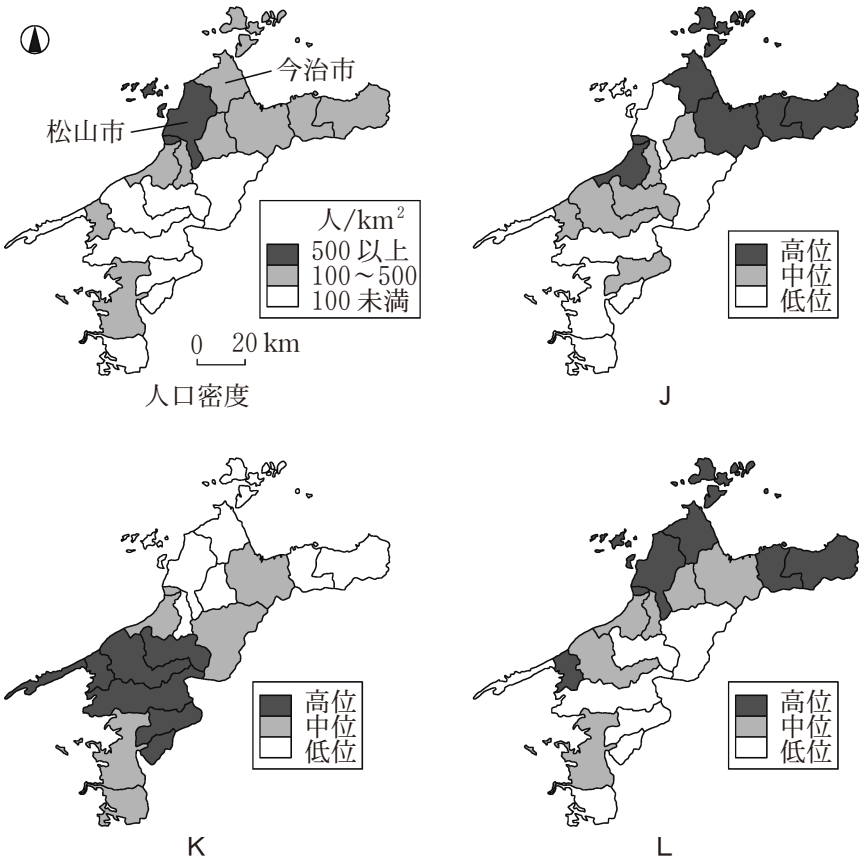
（単位：人/日）

		幹線バス	幹線旅客船
香川県	1995 年	116	1,374
	2015 年	984	1,621
F	1995 年	165	579
	2015 年	577	28
G	1995 年	218	5,130
	2015 年	725	909
H	1995 年	317	2,484
	2015 年	1,614	81

全国幹線旅客純流動調査により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
徳島県	F	F	G	G	H	H
愛媛県	G	H	F	H	F	G
高知県	H	G	H	F	G	F

問 3 セイヤさんたちは，今治市の産業構造を県内の他地域と比較するために，統計データを用いて次の図 2 を作成した。図 2 中の J ～ L は，1 km^2 当たり事業所数，第二次産業就業者割合，1 人当たり農業産出額のいずれかである。指標名と J ～ L との正しい組合せを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 107



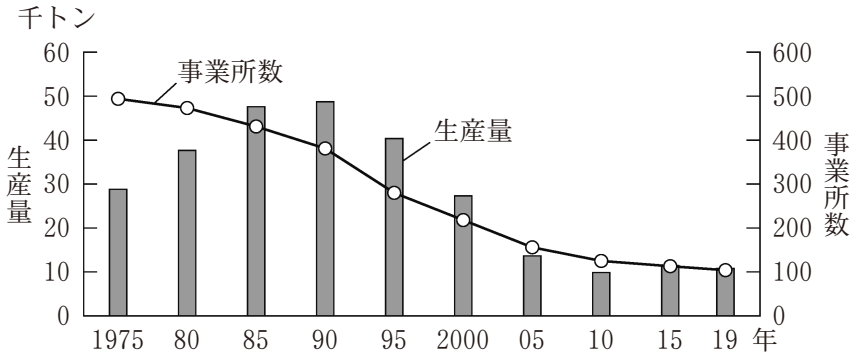
統計年次は，1 km^2 当たり事業所数が 2021 年，それ以外が 2020 年。
国勢調査などにより作成。

図 2

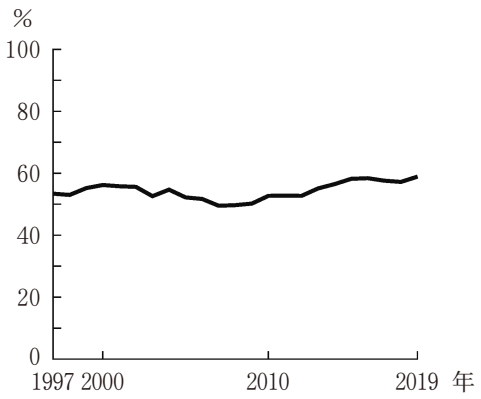
	①	②	③	④	⑤	⑥
1 km^2 当たり事業所数	J	J	K	K	L	L
第二次産業就業者割合	K	L	J	L	J	K
1 人当たり農業産出額	L	K	L	J	K	J

問 4 高校に戻ったセイヤさんたちは，地場産業の変化を検討するために，国内におけるタオルの生産量や輸入割合などの推移に関する次の資料１を作成した。資料１をみてセイヤさんたちが話し合った会話文中の空欄Ｐには語句**ア**と**イ**のいずれか，空欄Ｑには語句ｘ～ｚのいずれかが当てはまる。空欄ＰとＱに当てはまる語句の組合せとして最も適当なものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 108

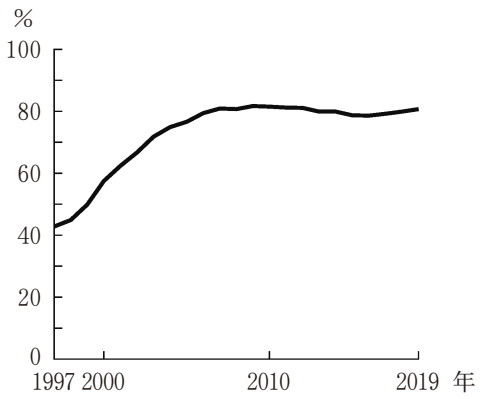
資料１



今治産地におけるタオル生産量と事業所数の推移



国内のタオル生産量に占める
今治産地の割合の推移



国内のタオル供給量に占める
輸入品の割合の推移

今治産地におけるタオル生産量と事業所数は，今治タオル工業組合に所属する企業のもの。
今治タオル工業組合の資料により作成。

セイヤ　「今治市では複数の造船所をみたけど，繊維工場もあったね。タオル製造業を例に，地場産業の変化について考えてみよう」

ヒトミ　「タオル製造業には様々な工程が含まれ，主に中小企業によって産地が形成されているようだよ。今治産地では，1975 年から 1990 年までタオル生産量が増加しているね。この要因として，主に（　P　）が進められたことがあると考えられるよ」

セイヤ　「1990 年代半ば以降になると，生産量は減少傾向に変わっているよ。今治産地のタオル製造業は，主に（　Q　）との価格競争の激化により，大きな影響を受けたと考えられるね」

ヒトミ　「この対応策の一つとしてブランド化が図られて，2007 年に『今治タオル』が地域団体商標に登録されたよ。他の地場産業の動向も考えてみたいね」

（　P　）に当てはまる語句

ア　各事業所における生産設備の大型化

イ　複数の事業所による作業工程の分業化

（　Q　）に当てはまる語句

x　国内の他産地

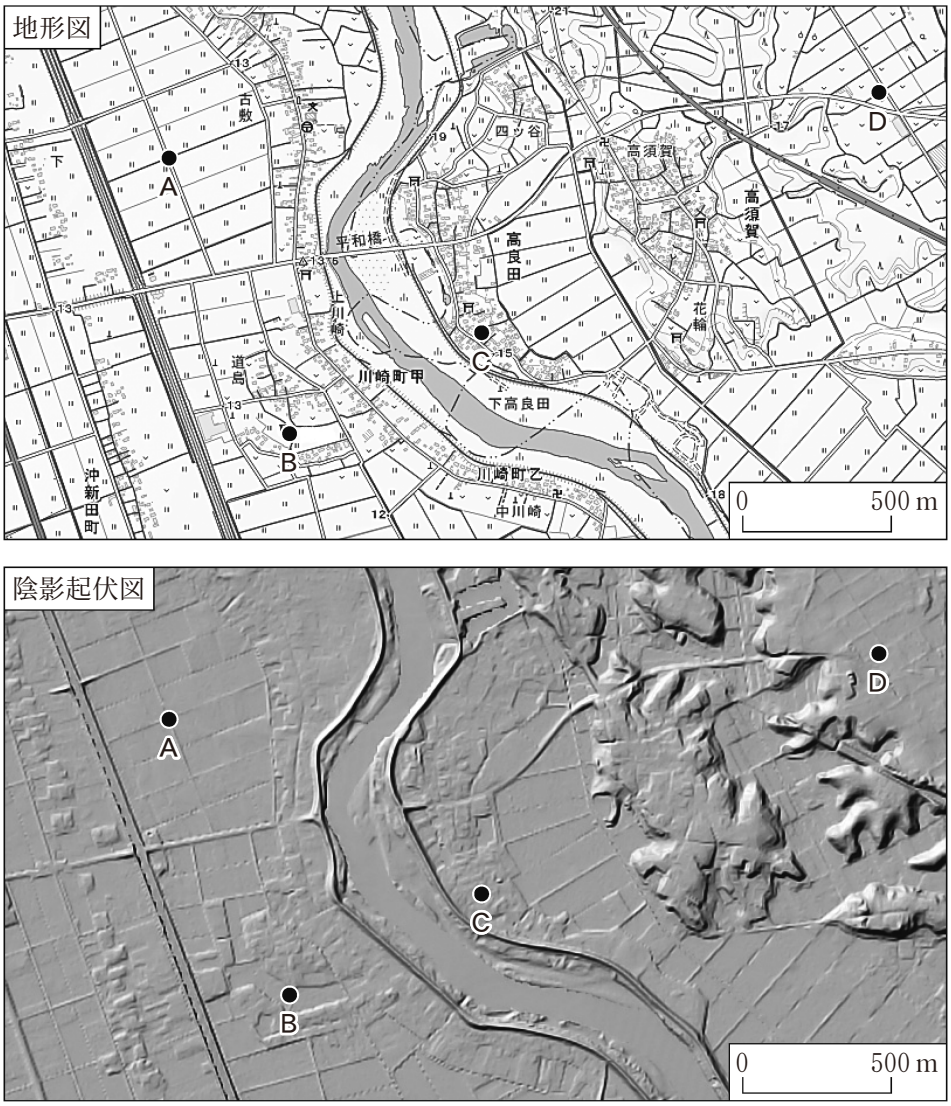
y　先進国の産地

z　発展途上国の産地

	①	②	③	④	⑤	⑥
P	ア	ア	ア	イ	イ	イ
Q	x	y	z	x	y	z

第 3 問　日本の自然環境と防災に関する次の問い（問 1 ～ 4 ）に答えよ。（配点　13）

問 1　次の図 1 は，ある地域の地形図と陰影起伏図を示したものであり，後の文①～④は，地点 A ～ D のいずれかについて述べたものである。地点 C について述べた文として最も適当なものを，①～④のうちから一つ選べ。 **109**

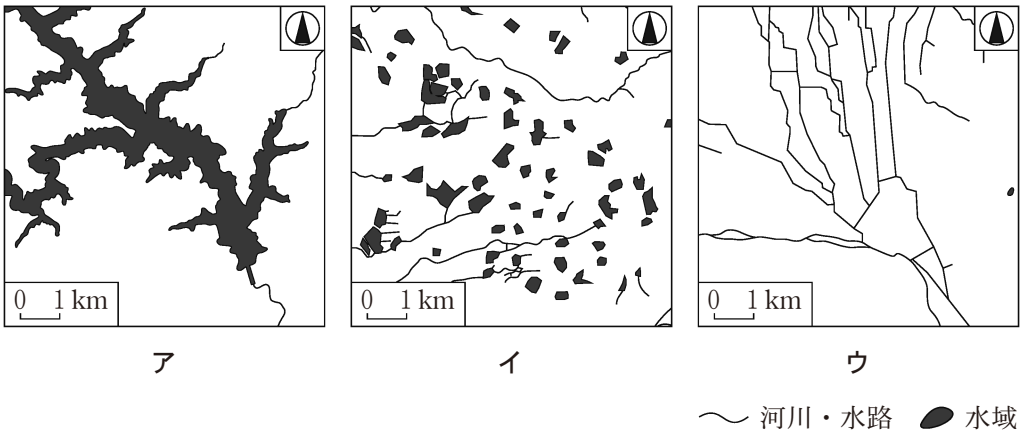


地理院地図により作成。

図 1

① 旧河道に位置し，地震の際に地盤が液状化しやすい。
② 後背湿地に位置し，周囲には多くの水路が造られている。
③ 自然堤防に位置し，周囲には古くからの集落が立地している。
④ 段丘に位置し，洪水の被害を受けにくい。

問 2 次の図 2 中の**ア**～**ウ**は，いくつかの地域における主な河川・水路と水域を示したものであり，後の文 F ～ H は，**ア**～**ウ**のいずれかにおける人工的な河川・水路と水域について述べたものである。**ア**～**ウ**と F ～ H との組合せとして最も適当なものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 110



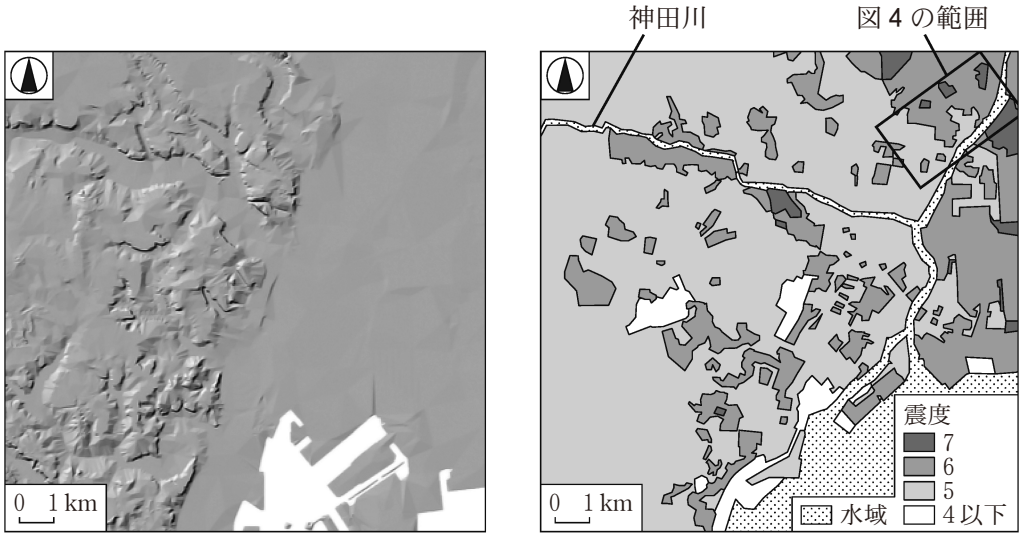
地理院地図により作成。

図 2

F 農業用水を貯めるために，降水量が少ない平野部に造られた。
G 農地に水を送るために，水はけが良い扇状地に造られた。
H 発電や洪水調整などのために，起伏の大きな山間部に造られた。

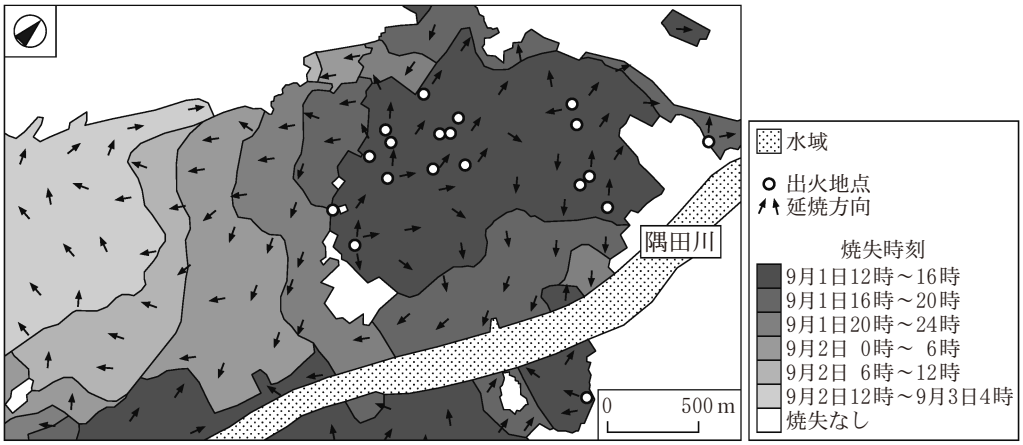
	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	F	F	G	G	H	H
イ	G	H	F	H	F	G
ウ	H	G	H	F	G	F

問 3　大きな地震では，揺れや液状化，津波，土砂災害によって様々な被害が生じるが，広域の火災が発生することもある。次の図 3 は，東京都東部の地形と関東大震災時の震度分布を示したものであり，後の図 4 は，関東大震災時の火災の延焼状況を示したものである。図 3 と図 4 に関することがらについて述べた文章中の下線部①～④のうちから，**適当でないもの**を一つ選べ。 111



陰影起伏図は現在のもの。内閣府の資料などにより作成。

図 3



『帝都大震火災系統地図』により作成。

図 4

1923 年 9 月 1 日 11 時 58 分に発生した地震は，大きな被害をもたらした。図 3 の地形と震度分布を比べると，①地震の揺れは台地よりも低地の方が大きい傾向がみられる。多くの場所で倒壊した木造家屋から火災が発生し，さらに，日本海側を台風が通過して，②強い南風が 2 日間継続したために，延焼範囲が拡大した。③図 4 の範囲では地震発生から 24 時間以上延焼が続いた。

こうした教訓をもとにして，東京都では，大きな公園の整備，密集市街地の区画の整理などにより，④延焼の被害を抑制する取組みが進められてきた。

問 4　自然災害から身を守るためには，様々な方法で防災意識を高めることが重要である。次の写真１中の**カ**～**ケ**は，防災のための構造物・施設の見学や観光の様子を撮影したものである。写真１に関することがらについて述べた文として，下線部が**適当でないもの**を，後の①～④のうちから一つ選べ。 112



カ



キ



ク



ケ

写真１

① **カ**では，地下の貯水槽をみて，平野での氾濫（はんらん）による被害を軽減する工夫を知ることができる。

② **キ**では，砂防堰堤（えんてい）をみて，山地の河川での土石流や泥流の危険性を知ることができる。

③ **ク**では，火砕流で被害を受けた建物をみて，火山噴火の危険性を知ることができる。

④ **ケ**では，河口にある可動堰（かどうぜき）をみて，津波の発生を抑制する工夫を知ることができる。

第 4 問　世界の生活文化の多様性に関する次の問い（問 1 ～ 4 ）に答えよ。（配点　12）

問 1　世界には，自然環境に応じた農業と食文化がみられる。次の図 1 中の地点 A ～ D について述べた文として**適当でないもの**を，後の①～④のうちから一つ選べ。 113

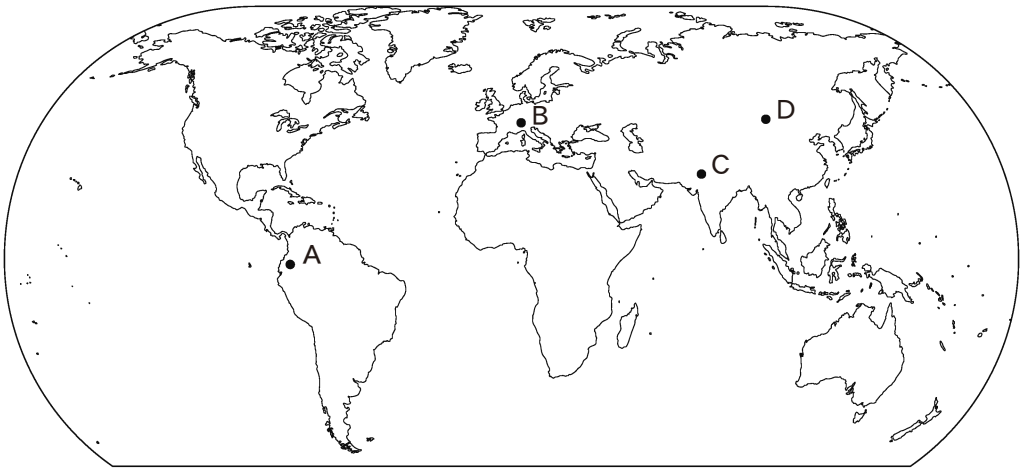


図 1

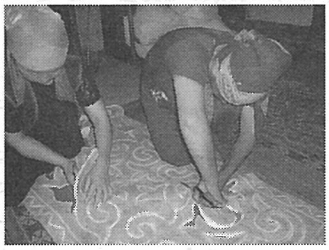
① 地点 A は，高温多湿な気候下にあり，周辺ではバナナ栽培が盛んで，バナナを油で揚げた料理がみられる。

② 地点 B は，標高が高く夏季でも冷涼な気候下にあり，周辺では酪農が盛んで，チーズなどの乳製品を用いた料理がみられる。

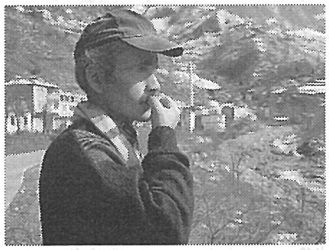
③ 地点 C は，降水量の少ない乾燥した気候下にあり，周辺では小麦栽培が盛んで，水で練った小麦粉を焼いた料理がみられる。

④ 地点 D は，降水量が少なく寒冷な気候下にあり，周辺ではトウモロコシ栽培が盛んで，水で練ったトウモロコシ粉を焼いた料理がみられる。

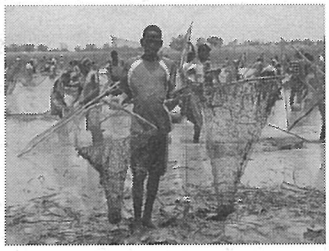
問 2　ユネスコの無形文化遺産の中には，様々な要因から継承が困難になっているものもある。次の写真１中のＦ～Ｈは，いくつかの地域における無形文化遺産を撮影したものである。また，後の文ア～ウは，Ｆ～Ｈのいずれかに関することがらについて述べたものである。Ｆ～Ｈとア～ウとの組合せとして最も適当なものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 114



F



G



H

写真１

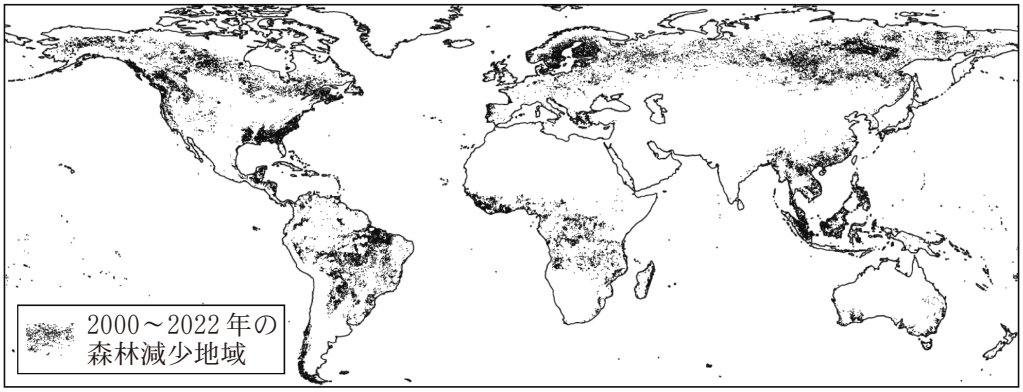
ア　主に高齢化や材料の不足，商業生産された既製品の普及の影響を受けている技術である。

イ　主に都市域の拡大や開発による環境悪化，降水量の変化の影響を受けている儀礼である。

ウ　主に若者の関心の低下や都市への人口流出，情報通信技術の普及の影響を受けているコミュニケーション手段である。

	①	②	③	④	⑤	⑥
F	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
G	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
H	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

問 3 世界には，人間活動により自然環境が大きく変化した地域がみられる。次の図 2 は，2000 年から 2022 年にかけて森林が減少した地域を示したものである。図 2 に関することがらについて述べた文として下線部が**適当でないもの**を，後の①～④のうちから一つ選べ。 115



Global Land Analysis and Discovery の資料により作成。

図 2

① シベリアの針葉樹林は，主に輸出用木材生産のための伐採や森林火災によって減少した。

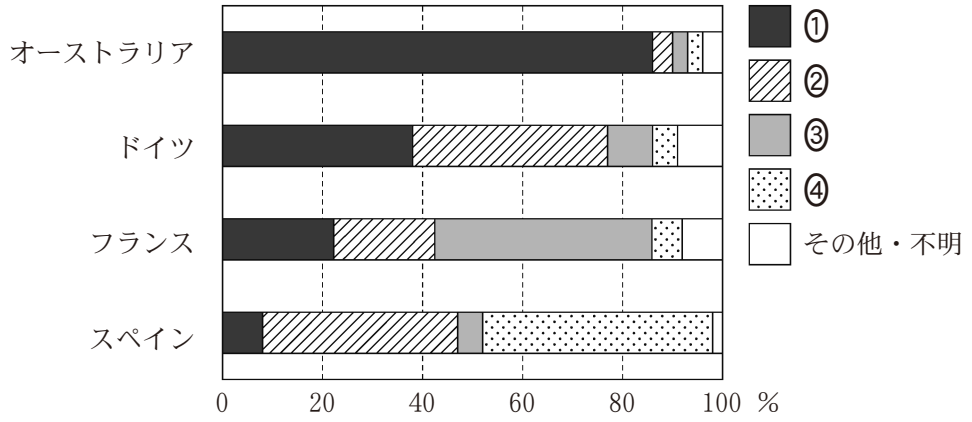
② 東南アジア沿海部のマングローブは，主にコーヒーの輸出拡大を目的とした農地の造成によって減少した。

③ 西アフリカ沿海部の熱帯林は，主に急激な人口増加に伴う農地の拡大や薪炭材を得るための伐採によって減少した。

④ 南アメリカのサバナと熱帯林は，主に大規模な牧場や大豆畑などの農地の造成によって減少した。

問 4　世界各国における留学生の出身地域の内訳には，出身地域と留学先との歴史的つながりや地理的距離など，様々な要因が反映されている。次の図 3 は，いくつかの国における留学生の出身地域の割合を示したものであり，凡例①～④は，アジア，アフリカ，ヨーロッパ*，ラテンアメリカのいずれかである。ヨーロッパに該当するものを，①～④のうちから一つ選べ。 116

*ロシアを含む。



Education at a Glance 2019 により作成。

図 3